

事業所名 放課後等デイサービス くじら雲

支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

7 日

法人（事業所）理念		立場や世代の異なる多様な人たちが関わり、つながることのできる多種多様な場づくりを行うことにより、地域に暮らす一人ひとりが共に支え合うことのできる社会の実現を目指します。						
支援方針		異年齢の児童が小集団で活動する。（外遊び・室内遊び・クッキング等） 個別支援でそれぞれの個人の課題の支援をする。（5領域に沿った療育） 児童個人の特性に沿った支援を具現化して実施し、生きる力を伸ばしていく。（家庭・学校・医療機関・行政等と連携して） 学習面でのつまづきを家庭・学校と連携しながら解消していく 自分で通所できるように、徒歩やバスでの通所の支援を行う。						
営業時間		10 時	0 分	18 時	30 分	まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	手洗いや気温に応じた衣服の着脱、荷物の片付けなど健康と基本的な生活スキルを習得していくための言葉かけ、関わりをしていく。 健康状態の把握と発達の特性に配慮して、顔色や声の大きさなどの小さなサインから心身の異変に気づけるように細かな観察を行う。						
	運動・感覚	日々の遊びを通して、身体の緊張や弛緩の感覚を身につけると共に体幹を強くすることや、指先の感覚を養っていく。（キッズヨガや紙や木・布・粘土などの異なる質感の材料に触れることなど） バランスボールやトランポリンを使い、遊びながらバランス感覚を養うことや、眼球運動を促すビジョントレーニングを提供する。						
	認知・行動	空間・時間の概念を把握するために、日付と曜日、天気を確認する。 1日のタイムテーブルを示して時間の認知形成を図る。 散歩や公園での遊びから四季の変化に気づき、街の風景に興味を持つ。						
	言語 コミュニケーション	自分の思いを言語に表出できるように語彙を増やす。（しりとりゲーム・逆さま言葉・なぞなぞ等の遊びを通して） 口腔機能の訓練も合わせて実施し明瞭な言語を習得出来るように寄り添う。 言語が不明瞭な場合は、表情や絵カード、タブレットの利用などでコミュニケーションを図れるように支援する。 また、人の話を聴くことの意義も合わせて身につけるように支援をする。						
	人間関係 社会性	個人の長所を認め、自尊感情を育む場を設ける。 クッキングなどの協同作業の中で各々の役割を果たし、完成した喜びを共に味わう。 地域のイベントに参加することで、地域の人々との交流を図る。地域での買い物を通して金銭感覚を養う。						
家族支援	定期的な面談を実施し、児童の成長の様子や家庭での状況を把握する。児童の送迎の際に保護者に当日のようすを伝えと共に、自立通所の児童にはライン連絡や連絡帳などを活用して共通理解を図る。	学校との連携	児童が1日の生活の中で長時間過ごす学校の担任の先生や、通級指導を担当している教員と連絡を取りあう。 5領域の中のどの領域に重点を置いた指導を学校で行っているかを把握して、同じ方向で療育を続けたり、異なる領域の療育を放課後等デイサービスで受け持つかを話し合う。 学習面でのつまづきを学校連携で解消していく					
地域支援・地域連携	新大宮商店街の中に位置する放課後等デイサービスなので、商店街での買い物を楽しんだり、夏祭りなど商店街イベントに参加する。 これらを通して、地域にどんな人たちが暮らしているかの理解を深めていく。 また、縁側空間を活用し、放課後等デイサービスに通所する際に近隣の人と挨拶を交わしたり交流する。	職員の質の向上	京都市北部地域自立支援協議会の児童部会の定期的な研修に参加する。また、虐待防止研修やハラスメント防止の研修と共にコンプライアンス研修を必ず実施している。 福祉従事者として自閉症スペクトラムや学習障害への専門知識や理解を深める研修の中で自己研鑽を図る。					
主な行事等	お誕生日会・七夕の会（願い事を短冊に書く）・ハロウィンイベント・クリスマス会・書初め大会（文字が書けない児童は絵や指で書く）1年の成長を話す会							